

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和 7 年度 6 月号

○ 概要

- (1) 令和 7 年度 6 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は 6,884 億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+4.6%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 9,497 円（伸び率+4.0%）であった。（→P.1,2）

調剤医療費の内訳は、技術料が 1,910 億円（伸び率+3.9%）、薬剤料が 4,960 億円（伸び率+4.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が 920 億円（伸び率+3.7%）であった。（→P.4,5）

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,234 円（伸び率+2.5%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、1 種類当たり投薬日数、1 種類 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.78 種類（伸び率+0.8%）、27.9 日（伸び率+2.4%）、68 円（伸び率▲0.7%）であった。（→P.8,9）

- (3) 内服薬の薬剤料 3,794 億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+113 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 39 その他の代謝性医薬品の 751 億円（伸び幅+40 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+55 億円（総額 535 億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,794 億円 (+113 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(751 億円)	21 循環器官用薬 (549 億円)	42 腫瘍用薬 (535 億円)
0 歳以上 5 歳未満	16.8 億円 (▲1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (4.4 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.3 億円)	61 抗生物質製剤 (2.8 億円)
5 歳以上 15 歳未満	92.4 億円 (+2.4 億円)	44 アレルギー用薬 (28.9 億円)	11 中枢神経系用薬 (27.0 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(7.6 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,443 億円 (+48 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(285 億円)	11 中枢神経系用薬 (269 億円)	42 腫瘍用薬 (178 億円)
65 歳以上 75 歳未満	759 億円 (▲5 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(179 億円)	42 腫瘍用薬 (140 億円)	21 循環器官用薬 (122 億円)
75 歳以上	1,483 億円 (+69 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(278 億円)	21 循環器官用薬 (260 億円)	42 腫瘍用薬 (214 億円)

- (4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,497 円（伸び率+4.0%）で、最も高かったのは福井県（11,453 円（伸び率+10.0%））、最も低かったのは佐賀県（8,300 円（伸び率+3.3%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは福井県（伸び率+10.0%）、最も低かったのは島根県（伸び率+1.4%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注1)}	91.2 %	+5.2 %
薬剤料ベース（新指標） ^{注2)}	77.7 %	+10.3 %
後発品調剤率	79.9 %	+0.7 %

注 1) 〔後発医薬品の数量〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕) で算出。

注 2) 〔後発医薬品の薬剤料〕 / (〔後発医薬品のある先発医薬品の薬剤料〕 + 〔後発医薬品の薬剤料〕) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.7 %	+20.8 % (10 歳以上 15 歳未満)	▲2.0 % (45 歳以上 50 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース、新指標）	77.7 %	87.0 % (100 歳以上)	65.5 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	91.2 %	93.8 % (100 歳以上)	90.2 % (80 歳以上 85 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	792 億円 (+39 億円)	21 循環器官用薬 (244 億円)	11 中枢神経系用薬 (141 億円)	23 消化器官用薬 (89 億円)
0 歳以上 5 歳未満	7.0 億円 (+0.6 億円)	44 アレルギー用薬 (3.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5 億円)	62 化学療法剤 (0.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	16.1 億円 (+1.3 億円)	44 アレルギー用薬 (9.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9 億円)
15 歳以上 65 歳未満	276 億円 (+9 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (66 億円)	44 アレルギー用薬 (27 億円)
65 歳以上 75 歳未満	157 億円 (+3 億円)	21 循環器官用薬 (60 億円)	11 中枢神経系用薬 (21 億円)	23 消化器官用薬 (18 億円)
75 歳以上	335 億円 (+25 億円)	21 循環器官用薬 (116 億円)	11 中枢神経系用薬 (53 億円)	23 消化器官用薬 (46 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.50~59）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,270 円	1,665 円(北海道)	1,079 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.1%	+5.1 % (奈良県)	▲0.8 % (島根県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	91.2 %	94.5 % (沖縄県)	88.7 % (東京都)
新指標による後発医薬品割合（薬剤料ベース）	77.7 %	83.0 % (鹿児島県)	72.9 % (徳島県)
後発医薬品調剤率	79.9 %	83.4 % (沖縄県)	76.8 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和7年度6月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。